う指導する。

ア　絵本の読み聞かせなどを通して，出来事など話の大体を聞き取ること。

イ　経験したことを思い浮かべ，伝えたいことを考えること。

ウ　見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり，考えたりすること。

エ　挨拶や電話の受け答えなど，決まった言い方を使うこと。

オ　相手に伝わるよう，発音や声の大きさに気を付けること。

カ　相手の話に関心をもち，自分の思いや考えを相手に伝えたり，相手の思いや考えを受け止めたりすること。

B　書くこと

書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近で見聞きしたり，経験したりしたことについて書きたいことを見付け，その題材に必要な事柄を集めること。

イ　見聞きしたり，経験したりしたことから，伝えたい事柄の順序を考えること。

ウ　見聞きしたり，経験したりしたことについて，簡単な語句や短い文を書くこと。

エ　書いた語句や文を読み，間違いを正すこと。

オ　文などに対して感じたことを伝えること。

C　読むこと

読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　絵本や易しい読み物などを読み，挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。

イ　絵本や易しい読み物などを読み，時間的な順序など内容の大体を捉えること。

ウ　日常生活で必要な語句や文，看板などを読み，必要な物を選んだり行動したりすること。

エ　登場人物になったつもりで，音読したり演じたりすること。

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを身に付け自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

イ　２の各段階の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については，〔思考力，判断力，表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。

ウ　２の各段階の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A聞くこと・話すこと」に関する指導に配当する授業時数は，児童の言語発達の状態を考慮し，適切に定めること。また，音声言語のための教材を積極的に活用するなどして，指導の効果を高めるよう工夫すること。

エ　２の各段階の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「B書くこと」に関する指導に配当する授業時数は，児童の運動の能力や手先の器用さなどを考慮し，適切に定めること。また，書き表す内容や方法については，個に応じて適切に選択すること。

オ　２の各段階の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」に関する指導に配当する授業時数は，児童の言語発達の状態を考慮し，適切に定めること。また，身近な題材を中心に段階的に様々な題材や文章に触れる機会を設けること。

(2) ２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

ア　２の各段階の内容のうち，文字に関する事項については，次のとおり取り扱うこと。

(ｱ) 平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うことができるよう指導を工夫すること。

(ｲ) 日常生活や他教科等で必要な漢字を読み，文や文章の中で使うなど，適切に指導内容を設定し，指導すること。

(ｳ) 平仮名，片仮名の読み書きが身に付き，字形を取ることができるなどの児童の学習状況に応じて，ローマ字を取り扱うこともできること。